

[B部会 発表要旨]

DXやICT活用に係る岐阜県の研修講座について

岐阜県総合教育センター

指導主事 淀川 雅夫

I はじめに

岐阜県教育振興基本計画（2019～2023年度）（第3次岐阜県教育ビジョン）では2030年以降の社会変化等を見据え、「ICT環境の整備と利活用の推進」を重点施策の一つに掲げている。

最終年度となる今年度、教員研修の立場から、整備状況に応じたICT活用の実践研修や、情報教育に係る第一人者から今後の教育の在り方について学ぶ研修を中心に、教員のICT活用や、情報技術の急速な発達に伴う変化の激しい社会へ対応していける意識を醸成し、第3次岐阜県教育ビジョンで掲げた目標の実現を目指している。

II 研修の実施について

1 整備状況に応じたICT活用の実践研修

自治体の1人1台端末の整備状況に応じて、プラットフォーム、授業支援ソフトごとの演習を通して、実践的に授業におけるICT活用方法を身に付けることをねらう。昨年度の実施状況より、一定程度の基礎・基本のスキルが身に付いたものの、「更なる活用」を求める声もあり、受講者のICTスキルの差を感じた。それを踏まえ今年度は、7月までに「基礎・基本」を身に付ける講座を、9月以降に「活用」に重きをおいた講座を開設している。

2 情報教育に係る第一人者による研修

技術革新が一層進展した超スマート社会の到来に備えたり、情報教育に係る今日的な課題に対応したりするために、次の有識者による研修を計画している。好評を得て昨年度から継続している講座もあるが、今後を見据えて新規講座も開設している。

- ・教育Youtuberが見てきた子どもたちの変化：教育Youtuber 葉一氏
- ・VRやメタバースで実現する学び：東京大学VR教育研究センター 雨宮智浩氏
- ・デジタルシティズンシップ教育のすすめ：岐阜聖徳学園大学教授 芳賀高洋氏
- ・次代を担う児童生徒のために学校教育に求めるもの：信州大学准教授 佐藤和紀氏
- ・1人1台端末環境における情報モラル教育：静岡大学准教授 塩田真吾氏
- ・データ利活用と個別最適な学び：スタディサプリ教育AI研究所 所長 小宮山利恵子氏
- ・新しい学びの時代の著作権：東京学芸大学こども未来研究所 教育支援フェロー 原口直氏

III まとめ

本原稿を執筆中にも、生成AIをめぐって、教育界における対応が検討され、今後も益々変化の激しい社会に対応していく必要があると感じられる。「不易流行」という言葉があり、情報教育は「流行」に位置付けられることが多いと感じるが、ICT活用そのものが目的ではなく、教育の本質に照らして活用することが「不易」となることを願っている。